

プラン名称:八戸市で「水産×教育」型観光～子どもたちが水産について楽しく学べる旅～

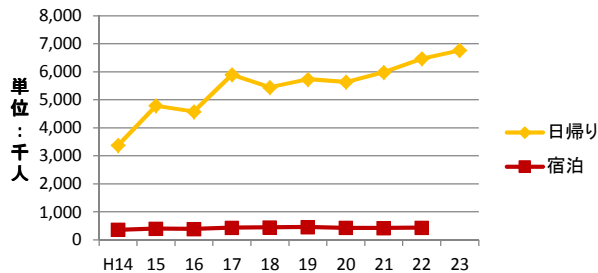
チーム名	わに何の用だっきゃ	対象地域	青森ステージ
大学名	青森中央学院大学	テーマ	「観光まちづくりプラン」 1～3から軸となるテーマを選択(複数可・必須) □1)青森の芸術・文化 ■2)青森の食 ■3)青森での体験
リーダー名	松尾健司		
指導教員名	寺井里沙		
メンバー名	松尾健司、佐々木凌光、田畑賢人、野口紗良、斎藤碧紀		

【本選出場】 JTB賞 受賞

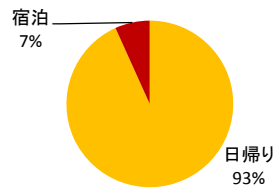
【問題背景】

・八戸市では、東北新幹線が開業後、日帰りの観光客数は増加傾向にあるが、宿泊客数は伸び悩む。宿泊客数は毎年1000人を下回っており、その割合は全体の1割以下である。

八戸市観光客10年間の推移



10年間の観光客数合計割合



・なぜ宿泊客数が伸び悩むのか？  
→八戸市では、魚を「食べる、買う」ことメインとした観光名所、名物が多く、短時間の滞在で終わってしまう。

・これを解決するために→体験型イベントに参加者を募り、長時間滞在してもらい、宿泊率を高める。

【プラン概要】

①既存の「水産×教育」型体験イベントの効率的な周知

・既存の「水産×教育」型体験イベントとして、ウニの殻むき体験、さけの採卵体験がある。  
・しかし、「八戸 観光 体験」で検索してもこれらの体験型イベントはほとんど引っかけられない。青森県・(公社)青森県観光連盟のホームページ「青森教育旅行ガイド」に、マルヨ水産の工場見学ツアー、マリエント水産科学館が紹介されているのみ。

体験型イベントを紹介する**集約的なサイト**を作り、  
効率的にアピール

②一日かけて水産について学ぼう！  
「水産×教育」型一日体験ツアー

・一日かけて八戸市の漁業、水産について学べる体験を提供  
午前:種差海岸で海釣り体験  
(漁協、漁師の方に船を出してもらおう。)  
昼食:漁師飯  
(漁師に魚のさばき方などを学び実際に作って食べる。)  
午後:工場見学(マルヨ水産など)  
(どのようにして魚を加工しているのかを学ぶ。)

魚を「**獲って**」「**加工して**」「**食べる**」の**一連の流れ**について学べる  
「**水産×教育**」型**体験イベント**を提供

【対象の観光客】

・単に楽しいだけの観光ではなく、子供の教育にもつなげる観光として

都市圏の家族層を対象

・また、修学旅行のプランとして

県外の小中学校の学生を対象  
(県外の小中学校にアピール)

【新規性】

・八戸市は全国有数の水産都市であるが、工場見学などを除いて、体験型イベントはあまり認知されていない。  
・「水産×教育」型の観光として**家族層、学校にアピール**

【このプランが実現した時の効果】

・体験型イベントへの参加による長時間滞在

↓  
八戸市の宿泊客数の上昇

・若い人はあまり魚を食べなくなっている。  
(魚食文化の衰退)  
→家族での「魚×体験」型イベントにより、魚食がもっと身近に。

・八戸市の漁業就業者数はかなり減ってきている。  
→八戸市の水産業への理解、興味を持たせる。

↓  
八戸市の漁業の活性化